

来週の市場とレート予想

	2/26(月)	2/27(火)	2/28(水)	3/1(木)	3/2(金)
無担保O/N			△0.075% ~ 0.001%		
銀行券	ト ン	△ 1,000	△ 400	ト ン	ト ン
財政他	△ 16,900	△ 1,000	+ 4,700	△ 7,000	△ 48,000
資金需給	△ 16,900	△ 2,000	+ 4,300	△ 7,000	△ 48,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(20Y)		交付税特会借入・償還		法人税・消費税・保険揚げ
オペ期日	共通担保(全店) △ 800 CP等買入 △ 700 国債補充供給 + 500				成長基盤 △ 400
オペスタート	共通担保(全店) + 1,300 社債買入 + 1,000 ETF買入 + 500	国債買入 + 8,500 短国買入 + 2,500	CP等買入 + 2,500		
(日本)		基調的なインフレ率を 捕捉するための指標(日銀)	日銀、当面の長期国債等の 買入れの運営について	債券市場サーベイ (2018年2月調査、日銀)	日銀営業毎月報告 (2月28日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額 CPI(東京都区部2月、総務省) 完全失業率(1月、総務省) 有効求人倍率(1月、厚労省)
(海外)	米 新築住宅販売(1月)	米 耐久財受注(1月) 米 FHFA住宅価格指数(12月) 米 消費者信頼感指数(2月) 米 イェン前FRB議長と バーナンキ元FRB議長が会談 ユーロ圏 景況感指数(2月)	米 GDP(10~12月、改定値) 米 シカゴ製造業景況指数(2月) 米 中古住宅販売 成約指数(1月) 米 ハウエルFRB議長、 下院金融委員会で証言 ユーロ圏 CPI(2月、速報値)	米 新規失業保険申請件数 (24日終了週) 米 個人消費支出・所得(1月) 米 ISM製造業景況指数(2月) 米 景気先行指標総合指数(1月) 米 ハウエルFRB議長、 上院銀行委員会で証言	米 シガン大学消費者 マインド'指数(2月、確定値) ユーロ圏 生産者物価指数(1月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.040 ~ 0.060
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初366兆8,100億円から始まった。20日には、国庫短期証券の発行等の要因により、364兆円台まで減少した。その後は国債・国庫短期証券買入オペを主因に増加し、週末には366兆1,800億円となった。無担保コールON物は、積み期序盤で調達ニーズは弱く、週を通して落ち着いた地合だった。同加重平均金利は△0.048%~△0.044%の狭いレンジで推移した。また、試し取りが複数行実施され、+0.001%の出合いも散見された。ターム物は、1W~1M物で△0.025%~△0.015%の出合いが見られた。2月23日に実施された国庫短期証券買入オペのオファー額は、2,500億円で、前回オファー分(2月19日、オファー額7,500億円、応札倍率2.88倍)より5,000億円の減額となった。応札倍率は3.75倍となり、前回対比で上昇する結果となった。来週の予定は国内では、CPI(東京都区部、3月2日)、海外では、10~12月米GDP(2月28日)などが挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.250 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入れ発行総額は約5,900億円で、週間償還総額の約3,200億円を上回った。5・10日発行や月末日スタートの前倒しで案件が増加、また商社や鉄鋼等からの大型案件もあり発行超となった。今週末の発行残高は、17兆7,000億円程度と思われる。発行レートは、期越物に対し強いビッドが散見されたが、ほぼ横ばいでマイナスから0%近辺の出合いであった。23日に、CP等買入オペ(2,500億円)がオファーされた。結果は、応札額が5,775億円と前回(4,385億円)に比べ増加したものの、ディーラーの応札ニーズが若干後退し、按分落札レートは△0.007%(同△0.005%)と低下した。来週の償還総額は、月末日の大量償還(約1兆3,000億円)を含め、約1兆6,500億円となっている。月末日スタートが減少する見込みで、償還超が予想される。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺の出合いであろう。現先レートは、△0.100%~0%程度の横這い圏内の出合いと思われる。

<TDB>

22日に行われた国庫短期証券3M第741回債の入札は、最高落札レート△0.1764%(前回債△0.1563%)、平均落札レート△0.1880%(同△0.1607%)と前回入札からマイナス幅を拡大。週末のセカンダリー市場も堅調に推移し、新発3ヶ月物は△0.20%近辺の出合、1Yは△0.18%の出合いが見られた。

<レポ>

足許GCは週初△0.10%近辺の出合いであったが、週央以降レートは低下。23日受渡しではSNで△0.11%~△0.12%、TNでは△0.15%を下回る取引も一部見られた。短国3Mの発行日となる26日受渡しは△0.11%~△0.12%。週末には国庫短期証券・国債買入オペがオファーされたが、水準に変化は見られなかった。SC取引では、10年349回債が21日の国債買入オペ後△0.10%台半ば~後半の出合い。10年339回債は週を通して概ね△0.20%台半ば~△0.30%近辺で取引された。他2年383・384・385回債、5年133・134回債、10年340・341・342・346・347・348回債、20年160回債、30年56・57回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。